

令和6年高校生議会 代表質問通告表

順	質 問 事 項	質 問 者
1	<p>私達のグループは、佐渡市の医療にフォーカスし、佐渡の未来について考えています 現在、佐渡市では高齢化が深刻になってきています。それに伴い、病院へ通うお年寄りの数も増加しています。しかし、佐和田病院、真野みずほ病院の閉院により、そちらへ通っていた患者が佐渡病院のような中枢の病院へ流れ、佐渡病院の医療従事者の負担が大きくなっていると感じております。そこで、佐渡の医療体制について伺います</p> <p>1 佐渡病院は急性期病院であり、急性期の集中治療に目途の付いた患者の転院が考えられますが、病床数が減少している今、患者の受入れ先についてどのようにお考えですか</p> <p>2 大幅に削減された病床数の確保の対策として、「医療と介護の連携」という改善策が提案されていますが、「医療と介護の連携」とは、具体的にどのような策でしょうか。また、その策で介護施設と連携を取るのであれば、介護職員の負担増が予測されますが、増加する負担への対策として考えていることはありますか</p> <p>3 病院の閉院により、体の不自由な高齢者の方々の通院が大変困難になっていると感じております。そこで、私たちのグループでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院への通院用のバスを用意する ・ リモートでの診療を導入する <p>という2つの案を提案します。バスの運転手をどうするかや、通信環境の整備など、多くの課題もあると思いますが、高齢者が手軽に通院や診療を受けることができれば、佐渡の医療体制で生じている問題の1つが解決に向かうと考えます</p> <p>以上が、私たちのグループの質問と提案です</p> <p>これからの佐渡の未来に向けて、市長のご意見をお聞かせ下さい。よろしく申し上げます</p>	<p>羽 茂 高 校 2 A チーム</p> <p>山田 大翔 金子 夢大 菊池 修平 絞張 菜月</p>
2	<p>皆さん、私たちが今住んでいる佐渡の景観について少し考えてみてください</p> <p>私たちが住んでいる佐渡はとても自然豊かな場所で、見渡せば美しい山や海が見えてきます。しかし、それと同時に、見ていて気分の良くないものも見えてしまうことがあります。それは、人が適切な処分を行わなかったために見えてしまったゴミです。皆さまも街中でふとした時に、「ゴミが落ちている」と思ったことが何度かあるのではないのでしょうか。私はついこの間、海岸沿いに多くのゴミが落ちているのを見てしまいました</p> <p>実際に、新潟県が出した地域計画では海岸漂着物の対策が課題だと記載されており、2024年5月には佐渡観光旅館連盟が、道路整備や海岸漂着物の清掃のための原資として宿泊税導入の要望書を佐渡市に提出したことから、大きな問題であると言えます</p> <p>佐渡市として、このゴミ問題は無視できない問題だと考えますが、いかがでしょうか。そこでお尋ねします</p> <p>1 ゴミ問題の解決に向けて、佐渡市はどのような方針に基づき、どのような政策を行っているのでしょうか</p> <p>2 私たちのグループでは、このゴミ問題による自然環境への悪影響や景観の乱れを懸念しており、問題の解決に向けた取組を考えました。それは、佐渡市に住む学生が、それぞれの学校で年に一回以上の事前学習とゴミ拾い活動を公的行事として実施することです。この取組を実施することで、道路や海岸に落ちているゴミの量を一気に減らすことができます。他にも、「回収したゴミの量を可視化し、データとして活用できる」「学生にとって、座学では学べないことを学ぶ機会になる」「行事の参加を通して、地元や地域への関心を高め、さらなるボランティア活動への参加が期待できる」「地元や地域への愛着を高めることにつながり、佐渡市民の活力の向上にもつながる」などの多くの利点が考えられます</p> <p>私たちは、この活動をすることがSDGsのゴールの11、12、14、15の達成につながるのではないかと考えています</p> <p>SDGsとは、全世界、日本、そして私たちの住むまち佐渡も含め、達成すべき内容です。私たちにできることを着実にやり、これからも持続可能な社会のためにいろいろなことに興味を持ち、今回の高校生議会の経験をしっかりと生かしていきたいと思っております</p> <p>よろしく申し上げます</p>	<p>佐 渡 中 等 高 校 生 議 会 チ ャーム</p> <p>小林 千夏 神蔵美也子 橋本 梨央 山口このこ</p>

順	質 問 事 項	質 問 者
3	<p>私たちのグループでは、佐渡市の人口減少が最近問題となっていることから、これに対する施策を考えました</p> <p>1 佐渡市に企業の工場を誘致して、人口減少に少しずつ歯止めをかけ、さらに企業・市のPRも行えると考えました。では、誘致地域にするためには今後何をどうしていくのかをお聞かせ願います</p> <p>2 佐渡市の歳出予算約480億円から不必要なところを抜き出して、子どもを産み育てやすい環境の整備を行っていかねば、人口減少の根本的な解決には至らないのではないかと考えておりますが、どのようにお考えでしょうか</p> <p>以上が私たちの質問と提案になります。市長のお考えをお聞かせ願います</p>	<p>(佐渡高校) 1年1組6班</p> <p>本間 縁 計良 悠熙 白井 義将</p>
4	<p>私たちは、佐渡の人口の社会増、若者人口増について考えました</p> <p>まず、佐渡の現状について調べてみました。佐渡総合病院によれば、今年生まれた子どもの数は6月までの半年間で69人でした。このままで行きますと、年間138人となります。また、市報さどのうぶごえ情報では、1月から5月までの合計が61人であり、ここから推移すると年間146人になります。いずれにしても150人を下回ることが予想されています。ちなみに、私が生まれた2007年（平成19年）は424人でした</p> <p>人口増を考えるにあたり、次の3点に着目し考えてみました</p> <p>(1) 合計特殊出生率を上げる</p> <p>(2) 高校卒業後の離島率を下げる</p> <p>(3) 若者のUターン数を上げる</p> <p>この3つを実現させるための質問や提案をさせていただきますので、よろしく願いいたします</p> <p>まず1つ目は、合計特殊出生率を上げる施策についてです</p> <p>出生率を上げるためには「子育てしやすい環境」づくりが必須条件と考えます。このヒントを佐和田地区在住の鹿児島大学名誉教授の長嶋先生からお聞かせいただきました。沖縄県に程近い、鹿児島県大島郡伊仙町、徳之島町、天城町の合計特殊出生率は、それぞれ2.81、2.25、2.24でした。ちなみに、昨年度の佐渡市は1.49です。「子育てしやすい環境」とは何か。長嶋先生が実施したアンケートによれば、家族や友人、近所の人など身近に子育てを支援してくれる人がいるということでした。また、「子育てしやすい環境」づくりという視点では、気になるデータが市報さど7月号の12ページにありました。令和5年度に子ども若者相談センターに持ち込まれた相談件数は2,884件あり、令和4年度の年齢別の初回相談件数では、年齢が6歳、小学校1年生の保護者からの相談が36件で一番多かったようです。これは近くに相談相手がないため、「子育てしやすい環境」がない状態を明確に示していると思います。このことから、自助から直ちに公助に対応せざるを得ない現実が生まれていると考えます。また、互助、共助の仕組み作りが必要であると思います。そこで質問です！佐渡市が目指す「子育てしやすい環境づくり」について、市のお考えをお聞かせ下さい</p> <p>2つ目は、高校卒業後の離島率を下げる施策についてです</p> <p>昨年度、高校卒業後に佐渡を離れる高校生の割合は92%でした。そこで提案です！</p> <p>提案1通信制大学の設置です。通信制大学は比較的学費が安いというえ、大卒資格（学資）が得られます。経済的理由で進学を諦める必要はありません。また、様々な活動ができるフィールドが佐渡にはあります。市が今まで実施してきた大学連携の経験が生かせると思います。通信制大学の学生を佐渡に呼び込み、サポートすることで、新しい発想・ビジネスが民間で生まれる可能性や起業家が増える可能性があります。まずは、市が通信制大学を設置し、学費を一部負担する新しい仕組みを作り、全国にアピールしてみたいかでしょうか。全国から若者が集まる島構想へ！佐渡の良さを十分に知れば、佐渡を離れた後も関係人口としてUターンに繋がると考えます</p>	<p>明 誠 高 校</p> <p>関東 倅輝 山下 日葵</p>

順	質 問 事 項	質 問 者
4	<p>3つ目は、若者のUターン数を上げる施策についてです 令和5年度のUターン数は572人で、39歳以下は313人と伺いました。Uターン数は考えていたよりも多かったです。そこで提案です！提案2子育てするなら佐渡で、仕事をするなら佐渡で、佐渡ならではの楽しく豊かな体験を子どもたちに提供してみたいはいかがでしょう。また、面白い生き方や独特な生き方をしている若者の紹介、佐渡の可能性を子どもたちに伝える等も挙げられます。また、7月15日に真野新町大神宮で行われたバンブーフエスティバルは、1人の大学生が企画し、明誠高校と佐渡高校、特別支援学校の生徒が運営しました。今年で3年目を迎え、かなり盛り上がりました。そこで提案です！提案3市民が主体となって動く地域の賑わい創出のための活動に行政の支援をお願いできないでしょうか</p>	<p>明 誠 学 校 関 東 倅 輝 山 下 日 葵</p>
5	<p>私たちは、金泉、石田から栗野江の高校に毎日通っています。学生車がありますが、部活動終了後、金泉に帰るためには18時55分佐和田バスステーション発に乗る必要があります。しかし、更なる減便が噂されています。旅客減少に加え、運転手不足も課題だそうです。報道によれば、市は路線バスのみならず、自家用車やスクールバス、ホテルの送迎車等、あらゆる交通資源を活用した地域交通を支える仕組みを考えているようですが、地域の交通弱者や観光客を含めた地域交通のランドデザインをどう描いているのか、質問します</p> <p>(1) 現在、予約運行となっている地域もありますが、市民や観光客からの不満の声はありますか。改善点も含めた方向性を教えてください</p> <p>(2) 減便の背景にある運転手不足と長時間労働規制に関して、佐渡市として、島外からの「バス運転士緊急確保事業」のほか、私たち若者の運転免許取得後3年かかる大型二種免許取得への補助等は検討していますか</p> <p>(3) 民間の車を公共利用するシステム「自家用車有償旅客運送」についての計画や方向性を含めて、教えてください</p> <p>(4) 現在は、ジェットフォイルの両津港到着にも対応できていないバスダイヤを、十分なダイヤに戻すために、佐渡観光者の人数及び佐渡汽船運行計画をパターン別に教えてください。これを支え得る路線バスの台数と運転手数、その他の利用予定の民間バス、提携民間車両と運転手数をどのくらいの数で想定していますか。地域交通のランドデザインと、それを支える地域インフラのパターンを挙げて示してください 地域住民、とりわけ若い世代と協力して解決していきましょう</p>	<p>(総合高校) 地域の足を どうする 委 員 会 白川 藍花 藤原 広人 山本 三晴</p>